

第3章 システム化要件

3．システム化要件

システム化要件については、「Business Requirement Worksheet Global Data Synchronisation Network Compliance Certification」の中で、Data Pool (DP) の認定要件として、述べられている。

その中で記述されている「セキュリティ要件」および「信頼性・耐障害性要件」について、以下に述べる。

3-1 セキュリティ要件

- 公開されたデータを照会、更新できる Party は許可与えられた Party であること
(アクセス制御対応)
- Data Pool (DP) 間、Registry 間通信は、電子署名による認証と併せて、やり取りされる全てのデータに対して暗号化が行なわれていること
(データ認証&暗号化対応)
- 不正侵入対策が施されていること
- ウィルス対策が施されていること
- ログ追跡、監査追跡が行なわれていること

3-2 信頼性・耐障害性要件

- Data Pool (DP) は 24 時間 365 日運営できること
- MTBF (Mean Time Between Failures) \ MTTR (Mean Time To Repair) から求める可用性は 98%以上であること
- フェイルオーバー機能やディダスタリカバリー機能を有していること
- 冗長性を持ったネットワーク構成であること

実証実験システムでは、セキュリティ要件に関しては、「Compliance Certification」ドキュメントに準拠する形で、システム実装する。

実運用の際には、信頼性・耐障害性の要件を満たすシステム基盤の構築が必要となる。